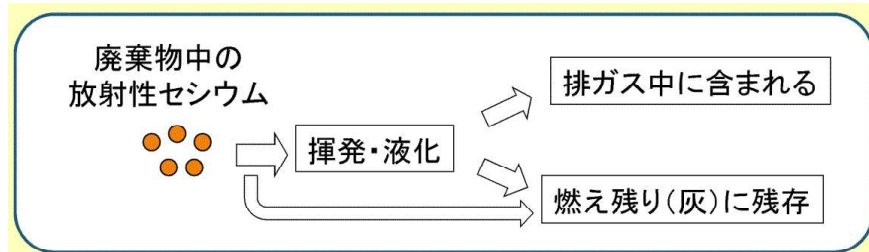


Q9 災害廃棄物（可燃物）を焼却すると放射性物質が飛散するのでは？

A9

○ 廃棄物中の放射性セシウムは、焼却炉内の850℃以上の高温の炎の中で揮発したり、小さな液滴となって排ガスと一緒に流れて行くものと、燃え残りの灰（主灰）に残るものに分かれます。



- 排ガスが冷却される過程で、放射性セシウムは主に塩化セシウムとして固体状態となり、排ガス中の微粒子の灰（飛灰：ばいじん）に凝集したり、吸着されます。
- 焼却施設には、排ガス中の飛灰を除去する高性能の排ガス処理施設（バグフィルター等）が備わっています。国によると、排ガスから放射性セシウムがほぼ100%除去されており、現行のばいじんの排出規制を遵守していれば、大気への拡散の心配はありません。
- 宮古市や野田村の可燃物を受け入れた施設において実施した測定調査においても、以下のとおり、排ガス中に放射性セシウムは検出されませんでした。

野田村の可燃物焼却処理における排ガス測定調査結果
（平成24年9月～平成25年3月）

〔単位：ベクレル／m³〕

自治体名	測定場所	セシウム134	セシウム137	目安値
秋田市	1号炉	不検出 (0.77)	不検出 (0.67)	$\frac{\text{セシウム134の濃度}}{20} + \frac{\text{セシウム137の濃度}}{30} \leq 1$
	2号炉	不検出 (0.67)	不検出 (0.68)	
横手市	1号炉	不検出 (0.78)	不検出 (0.70)	
	2号炉	不検出 (0.80)	不検出 (0.80)	
由利本荘市	1号炉	不検出 (0.56)	不検出 (0.50)	
	2号炉	不検出 (0.60)	不検出 (0.69)	
湯沢雄勝広域市町村圏組合	1号炉	不検出 (0.83)	不検出 (0.70)	
	2号炉	不検出 (0.62)	不検出 (0.61)	

※括弧内は調査期間における検出下限値の最大値

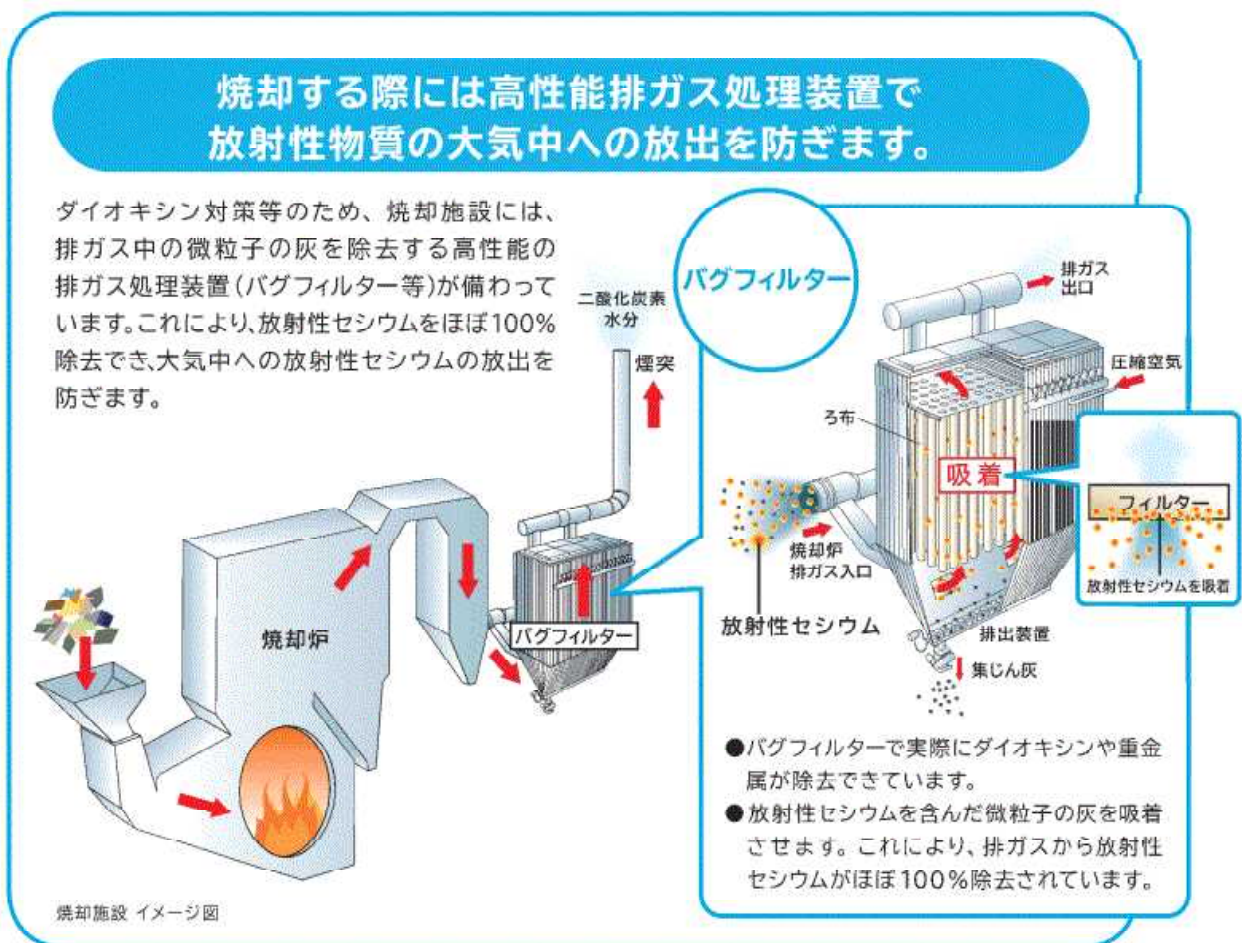
宮古市の可燃物焼却処理における排ガス測定調査結果
(平成24年4月～平成25年7月)

[単位：ベクレル/m³]

自治体名	測定場所	セシウム134	セシウム137	目安値
大仙美郷環境事業組合	1号炉	不検出 (8.0)	不検出 (0.97)	$\frac{\text{セシウム134の濃度}}{20} + \frac{\text{セシウム137の濃度}}{30} \leq 1$
	2号炉	不検出 (0.60)	不検出 (0.58)	

※括弧内は調査期間における検出下限値の最大値

◎ 排ガス処理装置（バグフィルター）の機能



出典：環境省パンフレット